

【背景】

- ・ 東京都内の梅毒の報告数は例年1,500件前後で推移
令和3年2,451件、令和4年3,677件、令和5年は3,701件と増加
- ・ 年齢階級別・性別報告数では、男性は20～50歳代、女性は20歳代を中心
Z世代を含む若い世代を中心に広がっている
- 当保健所管内の梅毒発生届出の動向も東京都と同様
- ・ 令和5年度に管内大学に感染症普及啓発を実施した際、大学職員から「性行為により性感染症に罹患することを知らない学生もいる」との声も聞かれ、
適切な予防行動がとれていないことが推測された
- ・ 当保健所における性感染症検査の受検者は、50歳代以上が約半数を占め、
検査ターゲット層が受検につながっていない現状がある



【目標】

Z世代への効果的な普及啓発の検討・実施を通じて、Z世代が正しい知識の習得や予防行動・受検行動につながることを目指す。

※Z世代とは：1990年代半ばから2010年代序盤に生まれた世代で、2025年現在14歳から30歳前後の年齢層

【2年間の事業内容】

R6年度

(1) Z世代の性感染症の予防行動に関する情報収集、研修会の開催

- ・管内大学学生2団体を対象にしたヒアリング調査
- ・関係者向け研修会

(2) 性感染症に関するアンケート調査の実施

- ・対象：性感染症検査受検者と管内6大学の大学生
- ・内容：性感染症の知識や予防行動、受診や受検行動を促す要因等

(3) 保健所性感染症検査や性感染症予防の普及啓発・周知方法の検討

- ・助言者、管内大学学生3団体と検討会を開催。調査結果を基に、Z世代に受け入れられやすい周知方法やメッセージ等を検討

R7年度

(1) 普及啓発動画内容・構成案の検討及び制作

(2) 制作動画の公開・性感染症予防普及啓発キャンペーンの実施

- ・大学の学園祭での動画公開と視聴後アンケート等の実施
- ・各市健康主管課、高校・大学保健担当を対象に動画制作報告会を開催
- ・エイズ予防月間に合わせた大学での啓発キャンペーン等

(3) 本事業成果の評価

- ・動画視聴後アンケート、媒体アクセス数、保健所検査状況の分析等

【R6年度(2)性感染症に関するアンケート調査概要1】

■調査期間・方法

- ・令和6年10月7日から11月12日
- ・保健所性感染症検査時に保健所職員が6回アンケート*配布
- ・管内5大学に保健所職員が出向いてアンケート*配布
(1大学は、学園祭で学生団体さんのご協力でアンケート*設置)

*WebアンケートにアクセスできるQRコード付きチラシを配布し、Webフォームにて回答を回収

■回答状況

対象	アンケート配布数	回答数	回答率
①検査受検者	62	38	61.3%
②大学生	374	190 *属性:大学生のみ179	50.8% *属性:大学生のみ48%

大学での実施状況



【R6年度(2)性感染症に関するアンケート調査概要2】

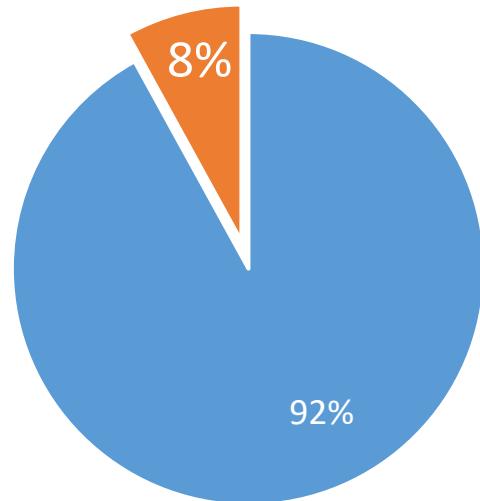


知識

性感染症にかかる可能性のある行為について回答する選択肢に違いはあるのか？

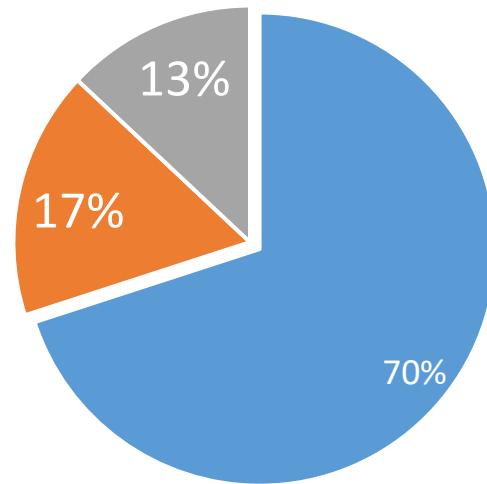
Q.性感染症にかかる可能性のある行為をすべて回答してください。

検査受検者



- 3つすべて回答 (膣性交、口腔性交、肛門性交)
- 2つ回答

大学生



- 3つすべて回答 (膣性交、口腔性交、肛門性交)
- 2つ回答

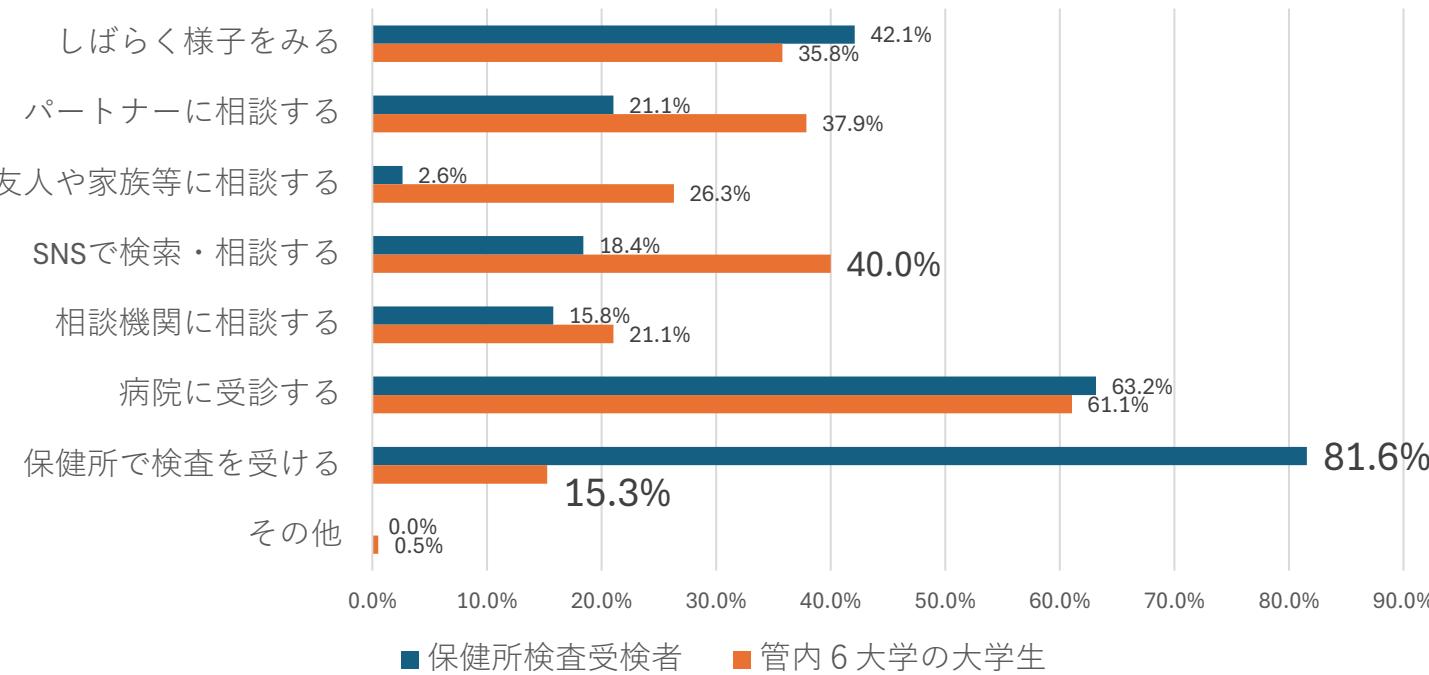
検査受検者に比べ、大学生が正しく回答できた人の割合が少ない

【R6年度(2)性感染症に関するアンケート調査概要3】



検査受検者と大学生を比較して、性感染症にかかっているか心配になったときの対処行動に違いはあるのか？

性感染症にかかっているか心配になった時の対処行動（複数回答）



検査受検者：保健所で検査を受けるとの回答が多かった。

大学生：パートナーに相談する、友人や家族等に相談、SNSで検索相談する、病院に受診をすると回答した人が多かった。

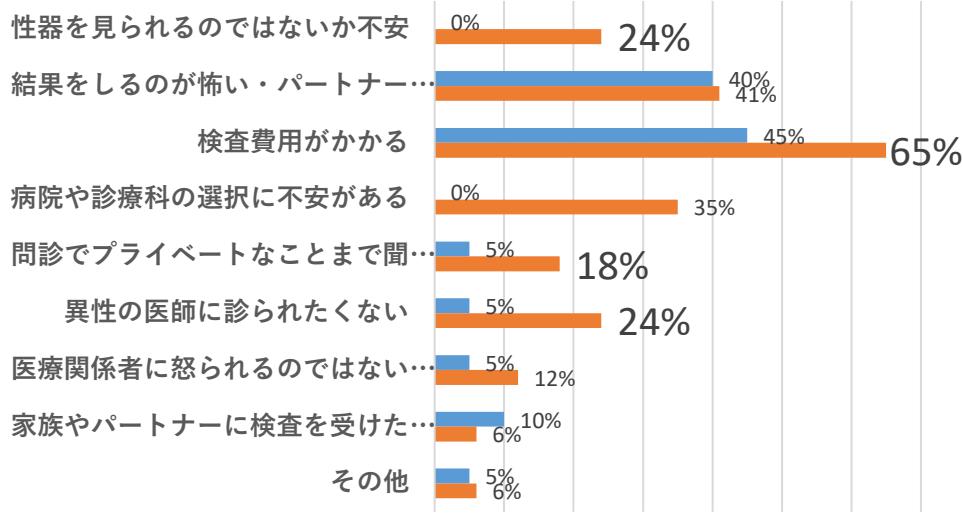
【R6年度(2)性感染症に関するアンケート調査概要4】



検査

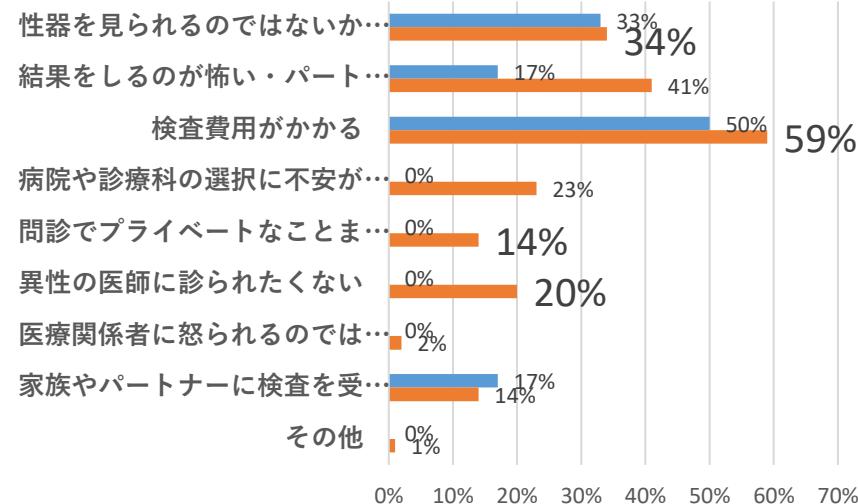
検査受検者・未受検者で性感染症検査を受けるにあたり
心配に思うことに違いはあるか？

検査受検者



■ 性感染症検査受検経験あり ■ 性感染症検査受検経験なし

大学生



■ 性感染症検査受検経験あり

■ 性感染症検査受検経験なし

検査未受検者は、性器を見られるのではないか、問診でプライベートなことを聞かれるのではないか、という回答が多く、どのように検査が行われるか分からなかったため、不安を感じていることが考えられた。

【R6年度(3)普及啓発方法・周知方法の検討】

アンケート結果分析・普及啓発動画内容検討会の開催

アンケート分析結果～検査受検者と比較した大学生の傾向～

- ・調査概要3：知識として病院受診を認識しているが「保健所で検査を受ける」の回答割合は低く、保健所性感染症検査の認知度は低い
- ・調査概要4：検査未受検者では検査費用や他者に結果を知られることに不安があり、検査の具体的案内により解消できる可能性がある



普及啓発動画内容

- ・性行為の機会があれば誰でも感染する可能性があることを強調
- ・性感染症の罹患可能性・重大性を伝え、自分事として捉えられる内容
- ・保健所における無料・匿名の性感染症検査の認知度向上が必要
- ・検査不安を軽減できるよう受検のハードルを下げ安心感を持たせる工夫

周知方法

- ・媒体：保健所HP、東京動画・都保健所YouTube、東京都SNS(X)、大学HP等
- ・イベントの活用：大学学園祭やエイズ予防月間普及啓発キャンペーン

【R7年度(2)動画公開・性感染症予防普及啓発キャンペーン】



- ・3分Ver：知識と検査勧奨
- ・30秒Ver：検査勧奨

【主なメッセージ】

- ・性感染症の罹患可能性、特徴
- ・パートナーとの検査の勧め
- ・コンドームの使用
- ・保健所検査の具体的な受け方、検査の流れ

R7.10～

大学学園祭
ブース参加

動画制作
報告会

エイズ予防月間
キャンペーン

動画視聴 + アンケート調査
普及啓発グッズ配布

普及啓発
ステッカー・チラシ配布

大学・高校

各市公共施設

バスや駅など
公共交通機関

商業施設